

# 令和7年度 学校評価結果

学校法人 高松学園  
幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園

お陰様で保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご協力をいただきながら、今年度も無事、年度末を迎えることができました。皆様に心より御礼申し上げます。

平成27年4月に幼保連携型認定こども園の認可を受けてから今年で10年目を迎えました。ここ2、3年で保護者の共働き率が急上昇し、長時間の保育を必要とするお子さんが増えてきました。そのような園内の変化に伴い、教育・保育の在り方や、職員の業務の在り方を考えるべき時期となっております。

2月に保護者アンケート結果と教職員の自己評価結果等の集計を基に、学校関係者評価委員の皆様からご意見をいただきました。来年度からの園運営に生かすべく、ここに令和7年度の学校評価結果を公表致します。

## 1. 教育及び保育の精神

本園は、認定こども園法及び子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）、児童福祉法（昭和22年法律第164号）に基づいて、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての教育並びに保育を一体的に行い、こどもの健やかな成長が図れるよう適当な環境を与えてその情操陶冶を行い宗教的萌芽を啓培し、以ってその心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育て支援をすることを目的とし、次に示す事項を重視して教育及び保育を行う。

- (1) 仏教精神を根底においた、ともに育つ保育を行う。
- (2) のびやかに自己を発揮する保育を大切にする。
- (3) こどもが自ら環境にかかわってつくりだす遊びを保育の中心におく。
- (4) 教育・保育に関する専門性を生かした保護者及び地域等への子育て支援を行う。

## 2. 教育及び保育の目標

本園は、乳幼児期における教育及び保育が、生涯にわたる人間形成の基礎、生きる力の基礎を培うものであることを踏まえ、一人ひとりのこどもが、感謝の念を持ち、生きる喜びを感じ得るよう、認定こども園法第9条に示された次に掲げる目標の達成に努める。

- (1) 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- (2) 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- (3) 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- (4) 日常の会話や絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- (5) 音楽や身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。
- (6) 快適な生活環境の実現及び子どもと保育教諭その他の職員との信頼関係の構築を通じて、心身の健康の確保及び増進を図ること。

### 3. 重点目標

- I, 生活や遊びの中で、様々な体験を通して「心情」「意欲」「態度」を培い、園児一人一人がのびやかに自己を発揮していく姿を大切にする。
- II, 保護者と保育教諭等、或いは地域社会と園が互いに連携し、協働の精神をもってこどもたちの教育・保育を行うようにする。
- III, 保育教諭の資質及び専門性の向上を図る。

### 4. 自己評価項目の達成及び取り組み状況

| 分野   | 項目<br>評価        | 評価 | 取り組み状況  |
|------|-----------------|----|---|
| 園の管理 | 教育・保育目標の周知      | A  | <p>3歳以上児保護者に配信する「〇月の保育」(月のカリキュラム)のねらいにどのような育ちに繋がるのか、「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」のピクトグラムの表示を継続している。</p> <p>今後は、クラスだよりなどでも、それぞれの遊びや活動がどのような育ちに繋がっているのかを分かりやすく伝えていくようにし、職員間はもちろん、保護者にも園の教育・保育を理解していただけるよう努めていく。</p>  |
|      | 危機管理体制の整備       | A  | <p>自動施錠装置を採用してから、保護者の方々に以前より安心いただけている様子がある。迎えの際には、インターフォンで名乗っていただかなければならないが、ご協力いただくことで防犯対策に繋がっており有り難い。</p> <p>園庭の遊具については、毎年点検を業者に依頼している。安全領域の不足や、経年遊具については、遊ぶ際には職員が必ず見守るようにするなど、安全対策を行っている。より安全に遊べるようにするために、令和9年度を目指して大型遊具の入替をする予定である。</p> <p>今年度は近隣でのクマ目撃情報や強盗事件の発生などで、園外保育や園舎の施錠など、留意しなければならないことが増えた。飯田市から情報を得ながら、今後も臨機応変に安全対策を講じていきたい。</p> |
|      | 家庭・地域関係機関への情報発信 | A  | <p>共働きの家庭が増えたことから、保護者が関係した行事に関しては、できるだけ早く連絡するよう心掛けていく。年度当初に分かっている行事に関しては、学年だよりなどで周知するようにする。</p> <p>地域公開行事については、地域の方々に年5回程ご参加いただいている。また、年長児は地域行事への参加も継続的に行っている。様子をホームページで報告しているが、保護者へは伝わりにくい様子がある。今後も工夫が必要である。</p> <p>外部の方のホームページへのアクセスは増えている様子だ。来年度はホームページを情報が得やすい形にリニューアルしていく。</p>   |
|      | 子育て支援           | B  | <p>夕方の延長保育を利用するお子さんが年々増加している。いかに安全・安心な時間とするかは常々検討しながら実施している。担任と延長保育担当職員が連携を取り、一人一人のお子さんについて理解を深めていくことも必要である。必要に応じて引き継ぎができる時間を確保するなどし、安全・安心に利用していただけるよう努める。</p> <p>保護者と職員間の連携を密にすることで、保護者が安心して預けられ、こどもたちが安心して生活できる。保護者の方から些細なことでも相談していただける関係性を、今後も大切にしていきたい。</p>   |
| 教育活動 |                 |    | <p>地域に向けた子育て支援としては、未就園児親子登園やBP2プログラムを今年度も行った。今後はより一層外部への広報に力を入れ、一人でも多くの保護者が育児を前向きな気持ちで行っていただけるような支援に力を入れていきたい。</p>  |

|      |                     |   |  |
|------|---------------------|---|--|
| 教育活動 | 教育課程・指導計画の共通理解      | A | <p>長時間保育を利用する子どもたちが増えていることから、園生活の在り方を検討していく必要がある。ただ、子どもたちに経験してほしいこと、経験しておいた方がよいことは、今まで通り優先して考えていく。</p> <p>各クラスに全学年の指導計画を置いている。一人一人の保育担当職員が、入園から卒業までの長期的な見通しをもって保育に当たれるよう各自で閲覧し理解を深めるよう心掛けていく。</p>  |
|      | 発達段階に即した適切な乳幼児理解・援助 | B | <p>園として、こどもの「やりたい」ことや気持ちを捉え、実現していけるように援助することを大切にしてきた。そのことが教育・保育の全般に生かされ、子どもたちにとって充実した楽しい園生活に繋がっている。今後も職員が向上心をもって、幼児理解に手を抜かず、子どもたち一人一人と向き合っていきたい。</p> <p>一人一人のお子さんの発達段階を把握し、発達を促す有効な援助を提供するためには、職員間での意識の摺り合わせは欠かせない。チームで共通理解を図りながら保育を行っていくために、今後も良好な同僚関係を築くことを大切にしていきたい。</p> <p>クラスの状況やお子さんの理解度によって、必要に応じて絵カードを使うなどの視覚的に示す配慮も保育の中に取り入れたり、前向きに取り組めるようにしている。子どもたちがよりよい成長を遂げられるよう、程よい手応えを感じながら主体的に生活できる環境を今後も提供していく。</p> |
|      | 円滑な連携<br>小学校との      | B | <p>同地区内の浜井場小学校の計らいで、5年生と年長児の交流機会をつくっていただいた。入学先は別の小学校という子も多いが、小学校内で遊ばせてもらったり、5年生に来園してもらったりして遊びを教えてもらえたことで、入学への期待感や小学生への憧れの気持ちが高まった様子だった。この機会を単なる交流と捉えず、小学校1年生への架け橋となるよう検討していきたい。</p>  |
|      | 職員の資質向上             | A | <p>長野県私立幼稚園・認定こども園協会主催の研修はもちろんのこと、コドモンカレッジを利用したり、飯田市保育家庭課や信州大学医学部附属病院、長野県立こども病院主催のオンデマンド研修を多くの職員が受講したりし、学びを深めることができた。今後も学びの機会を提案していくようにする。</p> <p>今年度は研究保育を3回行った。その中で、本園では初めて未満児クラスでも研究保育を行い、午睡の時間を利用して未満児担当者対象の研究会をもち、幼児理解や援助の在り方について意見交換ができたことは、大変有意義だった。今後も継続的に行っていくことで、教育・保育の質の向上を図っていく。</p>   |

## 5. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

| 評価 | 理由   |
|----|--|
| B  | <p>年度初めに、リアル研修が受講できない場合はオンデマンド研修の受講を全職員に呼びかけたことで、自主的に時間を確保し受講できた職員が増えた。適切な保育を、自信をもって行う姿に繋がるため、今後も研修を斡旋していく。</p> <p>40人を超える職員体制となっていることから、「気持ち良く長く働ける職場づくり」を大切に考えていきたい。こどもとも、保護者とも、職員間でも、相手のことを思いながら行動していける集団でありたい。</p> |

## 6. 今後取り組むべき課題（すでに実施し始めていることを含む）

| 課題                  | 具体的な取り組み方法   |
|---------------------|--|
| 発達段階に即した適切なこども理解・援助 | インクルーシブ保育についての園の考えなどを伝えていくようにし、保護者を巻き込み、園が一体となって全園児のよりよい成長をバックアップできるような体制を整えていく。 |

## 7. 学校関係者評価委員の評価

学校関係者評価委員の多くから「昨年度挙がってきた課題に取り組み改善が見られるとともに、保護者アンケートの結果も上向きで良好な園の運営が成されている」と「概ねA」と評価され、「延長保育利用者が増えてきていることから、安全に配慮して行えるよう担任から延長担当者への伝達を密にするなど、今後も努力することが必要」などのご助言を頂いた。

保護者アンケートで出されたご指摘・ご意見を十分に理解しつつ、今後も一人一人の園児や保護者にとって何が大切かを見極めながら、園の進むべき方向を決定していくことを期待された。

## 8. 財政状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

※ 4, 5 の評価基準

|   |           |   |                   |
|---|-----------|---|-------------------|
| A | 達成されている   | C | 取り組まれているが成果が十分でない |
| B | 概ね達成されている | D | 取り組みが感じられない       |